

總不 ^レ 合入込	穴、 ^レ 口	三、 ^レ 三
本不 ^レ 合入込	呑、 ^レ 口	三、 ^レ 三
計	空	六、 ^レ 三

三二八

(二) 改良試験

由來、鰹節製造中生魚ノ煮熟ニ際シ煮熟用水ノ水質ト製品品質トノ間ニハ甚大ナル關係ヲモツモノナリ即チ硬水ハ製品ノ香味色澤ニ悪影響ヲ及ボスコト多ク本縣ノ如キ鰹節製造地ノ大部分ハ水質惡シク宮古八重山ノ如キ殆ド半鹹水ヲ使用スルノ止ムナキ現狀ニシテ品質改良上遺憾トスルトコロナリ本場ハ右現狀ニ鑑ミ生魚ノ煮熟ハコレニ更フルニ蒸煮ヲ以ツテシ如何ナル用^レ水ノ惡質ナル地ニ於テモ煮熟用水ノ爲ニ品質ガ劣惡トナル虞ナカラシムベク研究ヲ試ミタレドモ圓南丸故障ニ依リ原料ノ水揚ナカリシ爲實現スルニ到ラザリシニヨリ次年度コレヲ施行セントス。

二、赤海苔利用試験

一、趣旨

本島西海岸並沿岸島嶼ニ產スル「まるばあのり」所謂赤海苔ノ利用法トシテハ現在蓮又ハ籠上ニ於イテ乾燥シタル體ノ原始的製品アルノミニテソノ食用法トシテモ單ニ惣物ニ投ジテ食スルニ過ギザルニ依リコレガ利用増進ヲ圖ル爲淺草海苔代用品トシテ抄製品及佃煮ノ製造試験ヲ行ヒタリ

二、乾海苔利用試験

(一) 試験時期 昭和十二年二月一日—全二月九日

(二) 場所 國頭郡伊江島

(三) 製造方法

1、機別並切斷

採取セル原料ハコレヲ一ツマミ宛組上ニ取り先づ介穀壠井共ノ他夾雜物ヲ取リ除キコレヲ「丁ノ海苔胞」ニテ交互ニ叩キ細剝スル。

次ニ二斗乃至三斗入りノ桶ニ水八分目ヲ満シ此ノ内ニ前記ノ細切セル海苔ヲ水一斗ニ對シ一升三合三勺ノ割合ニ混ジ抄拌ヲ以ツテヨク攪拌シツゝ掛一パイ

ニ掬ヒ取り葭簀上ニ抄ク葭簀ハ徑五厘十一分位ノ細キ葭ノ穗先ニテ製シタルモノニテ長サ一尺一寸幅一尺位ノ大キサニ其ノ六ヶ所ヲ綿糸及麻糸ニテ編ミタルモノナリ海苔ヲ抄漉スルニハ投ゲ付ケ法ト家鴨付ケ法ノ二種アレドモ赤海苔ノ抄漉ニハ後者ヲ適當トス乃チ其ノ方法ハ流シ臺ヲ水平ニオキ其ノ穴ヲ塞ギ之ニ水ヲ五分深サニ湛エテコノ中ニ葭簀ト同大ノ金網ヲ敷キコノ上ニ葭簀ヲ置キ更ニソノ上ニ枠ヲオキコノ枠内ニ樹ニテ掬ヒ取りタル海苔ヲ入レ箸ヲ以ツテ海苔ヲ厚薄ナク分布シテ後徐々ニ簀ヲ金網共ニ取上グ。

3、乾燥

乾燥法ハ枠乾ヲ可トシソノ方法ハ障子ノ親骨ノ如キ棧ヲ以ツテ三尺ニ六尺ノ枠ヲ造リ縦ニ一本横ニ五本ノ棧ヲ渡シ親骨ト縦骨ノ中央トニ一本宛長サ一寸程ノ釘ヲ上ヨリ少シ斜ニ打チ之ニ簀ノ端ヲ刺シ枠ニ固定セシムルモノナルガ初メ海苔ノ附着セル簀面ヲ内方ニ向ケ裏面ヨリ乾燥シ三、四時間ノ後簀ガ乾燥スル時反轉シテ更ニ海苔ノ面ヲ日ニ當テ充分ニ乾燥セシム。

4、乾燥後ノ處理

乾燥シタル海苔ハ簀付ノマ、裏返ヘシテ重不海苔ノ一端ヲ板ニテ押ヘ簀ノ方ヲメクツテ之ヲ剥ギ取り砂粒、塵埃ヲ除キタル後五枚ヲ重ネ一帖トナシコレヲ二ツニ折リテ紙帶ニテ括リ、コレヲ紙箱或ハブリキ函ニ目張リヲナシテ貯藏ス。

(四) 步留

本試験ニ於イテ使用セル試験原料ハ天候ノ關係上生原料ノ外乾燥原料ヲモ使用セリ。

イ、生原料ヲ使用シタル場合

生原料(スリ切) 一〇〇合

細切後(〃) 三〇合

右細切海苔三〇合ハ水二二六合ヲ加ヘ七一枚ニ抄漉。

ロ、乾燥海苔ヲ使用シタル場合

乾燥海苔(スリ切) 一〇〇合

水浸水切細切後(スリ切) 二八合

右細切海苔ニ水六斗ヲ加ヘ一九〇枚抄製

ハ、生原料ト乾燥原料トノ歩留關係

生原料(スリ切) 一〇〇合

乾燥後（スリ切）三八合

即チ生原料二六三合ハ乾燥後一〇〇合トナル

（五）生産費

現在販賣セル乾燥原料ノ値段ハ山盛（一升二合）一杯ニテ三十錢ナリ。故ニスリ切一升二十五錢トナリ抄製品一九、一枚ヲ製シ得ラルルヲ以テ一枚當リ一錢三一五トナル

三、佃煮製造試験

（一）製造時期 前全

（二）場所

（三）製造方法

採取セル原料ハ水洗シタル後水ヲ絞リ取りコレヲ一ツマミ宛組上ニ取り先ヅ介殻、塵埃其ノ他ノ爽雜物ヲ取り除キコレヲ二丁ノ薄切刃庖丁ニテ交互ニ叩キ細切スル、ヨノ細切ハ抄製品ノ場合ヨリモ大刻ミトナスモノトス
次ニ調味液ハ乾燥原料一升ニ對シ（生原料五升三合ニ對シ）醤油一升砂糖百匁ノ割合ニ調味液ヲ作リ一旦沸騰セシメタル内ニ前記細切海苔ヲ投ジ焦着ヲ來サザル様シヤモジニテヨク攪拌シツツ約二時間煮詰ム
煮詰メタルモノハ一旦廣口ノ容器ニ移シ十分冷却シタル後桶ニ詰メ込ミ十分ニ蓋ヲ爲シ貯藏ス

（四）生産費

生海苔 五斗三升 五圓〇三錢

醤油 一〇升 五、二五

砂糖 一〇〇〇匁 一、八〇

計 一二、〇八

製品 一合 一〇八錢六五

四、試賣結果

前記試賣ノ結果淺草海苔代用乾燥海苔ノ生値段ハ一枚當リ一三錢一五トナリ現在ノ淺草海苔ノ市場値段ヨリハ低廉ナルモ品位遙カニ落チ利潤アル値立ニテ